結核予防会ニュースリリース（2021.9）

結核予防週間　9月24日～30日

（厚生労働省標語）結核は、過去の病じゃありません。

主催：厚生労働省、都道府県、保健所設置市、特別区、日本医師会
結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会

結核低蔓延国化まであと一歩
しかし、発見が遅れている恐れあり・・・

2020年の結核罹患率（人口10万対）は、10.1でした。罹患率10.0以下の国は結核低蔓延国に区分され、日本も結核低蔓延国の仲間入りまであと少しとなりました。ただし、今回の数字は、額面通り受け取れない可能性もあるのです。

■結核患者の発見が遅れている可能性

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による緊急事態宣言の発出で外出自粛が要請されたこともあり、健診の延期や健診控え、医療機関の受診控えが生じました。本来であれば発見されていたはずの結核患者が発見されず、罹患率に適切に反映されていないと考えられます。結核患者の発見が遅れると、患者本人の重症化だけでなく感染拡大を引き起こす可能性があります。

■引き続き、結核対策の推進を！

結核患者発見の遅れを解消するためにも、低蔓延国化の先にある結核の制圧に向かうためにも、結核対策の手を緩めることなく更に推進していくことが求められます。

日本の結核対策のキーワードは、「高齢者の結核」、「外国出生患者の結核」です。日本と世界の結核の現状を本リリースでお伝えします。

2021年度結核予防週間ポスター

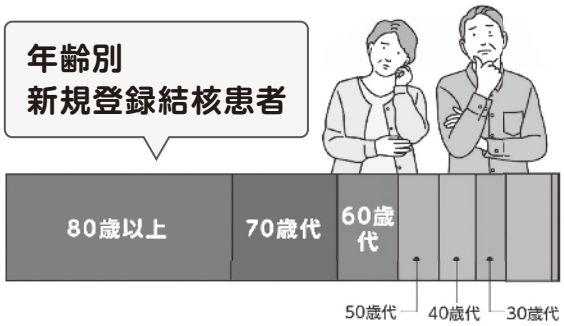
日本の結核

結核の統計2021より（対象期間：2020年1月～12月）

- 新規登録患者数 **12,739人** / 罹患率（人口10万対）**10.1**
- 外国出生者の新規登録患者数**1,411人**、年齢別では20歳代の**71.3%**
- 高齢者、特に80歳代の新規登録患者数**3,686人**、全体の**28.9%**

■高齢者の結核

○結核と診断された人のうち80歳代は28.9%、90歳以上は13.7%です。
○結核を発病しても目立った症状がないことが多く、結核と診断されず死亡後に判明するケースがあります。
○発見が遅れると本人の重症化や家庭・職場など様々な場所での感染につながる恐れがあります。



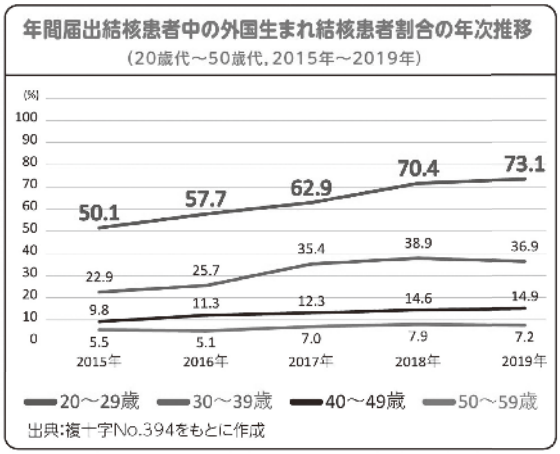
年少者の結核も要注意！

0～14歳の小児結核では、前年から14人増加し、前年比36.8%増となりました。特に、0～4歳は、9人増加し前年比50%の大幅増です。

■外国出生患者の結核

○結核患者の若年層に注目すると、外国出生患者（外国生まれ結核患者）の割合が年々高くなっています。直近の結果では、20歳代の71.3%、30歳代の48.1%を占めました。

○外国出生患者の場合、言葉の壁がある・医療アクセスが悪い・周囲に相談できる人が少ないといった結核の発見への様々な阻害要因が存在します。



■早期発見、早期治療 みんなで一緒に結核予防！

○早期発見、早期治療

本人の重症化や周りの人への感染リスクを減らすためには、定期健診や医療機関の受診による早期発見・早期治療が大切です。

○結核の認知度向上

結核はマラリア・エイズとともに三大感染症の1つです。過去のものと認識されがちですが、有史以前から生き残ってきた「しぶとさ」があり、引き続き結核を「主要な感染症」として皆様に知ってもらうことが重要です。ひとりひとりが正しく知ることで結核を予防することにつながります。

世界の結核

WHOファクトシート（2019年）より

- **世界の総人口の25%**が結核に既に感染しています。
- **1,000万人**が結核に罹患しました。
- 世界で**140万人**が亡くなりました（HIVとの重複感染者208,000人を含む）。
- 結核高負担国**30か国**で新規結核患者の**87%**を占めました。

※結核高負担国…WHOが推定結核患者数・罹患率に基づき設定した結核高蔓延国

■結核対策、5年後退の危機

新型コロナウイルス感染症対策にヒト・モノなどの資源が転用された結果、結核対策に下記のような影響が出ています。

○診療サービスの低下：医療機関への受診控え、結核診療施設や医療従事者の新型コロナウイルス感染症診療への転換など。

○結核の診断･治療の遅れ：住民を集めての健康講話の中止やハイリスクグループへの結核健診の中断など。診断が遅れている状況でロックダウンがあれば、家族内感染のリスクが高まります。

結核患者の発見が3か月間にわたり25%減少した場合、結核による年間死亡13%の増加が予想されます。結核対策の歩みを止めないために、**結核対策とコロナ対策を両立させて進める必要があります。**

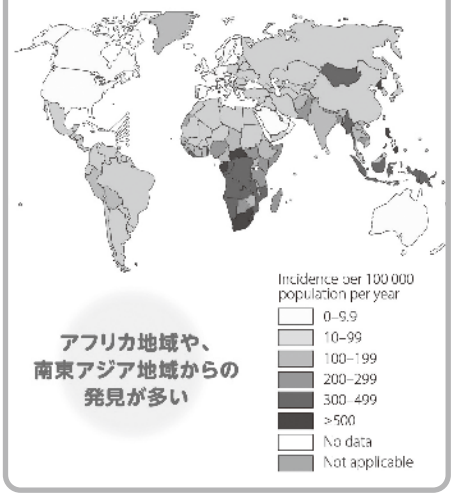
■世界の結核対策遅れの日本への影響、国際協力がなぜ必要なのか？

新型コロナウイルス感染症が終息した後、結核対策が後退した状況で国境の往来が戻れば、日本の結核の状況に悪影響がある可能性があります。

日本の現状は、外国人の労働力に依存する場面も多くあり、周辺発展途上国での結核対策は、日本の結核と密接な関係があるのです。

<世界の結核罹患率>

出典：WHO Global Tuberculosis Report2020



結核予防会は世界の結核制圧を目指して、人材育成・技術支援など国際協力事業を行っています

結核ボランティア研修（ザンビア）

複十字シール募金を活用しています。
詳しくは裏面をご覧ください。

結核予防週間行事予定

厚生労働省では、毎年9月24日～30日を「結核予防週間」と定め、結核に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

昨年に続き、結核予防会本部は、東京都西東京市にある電波塔（スカイタワー西東京）を赤でライトアップします。赤は、世界共通の結核予防のシンボルカラーです。

詳しくは、
結核予防会 を 検索！

結核の常識2021
（普及啓発パンフレット）

複十字シール運動

毎年8月1日～ 12月31日を複十字シール運動期間とし、結核を中心とした胸の病気をなくすため、募金活動を行うとともに、病気への理解を深め、予防の大切さを伝えています。

募金にご協力いただいた方に複十字シールを差し上げ、お使いいただくことで運動の輪が広がります。

募金は、結核や肺がん・COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの胸の病気の普及啓発、全国の結核予防団体の事業支援、開発途上国の結核対策支援、結核等の調査研究の活動に大切に活用しています。

複十字シール募金のお問い合わせ先

公益財団法人 結核予防会事業部募金推進課
フリーダイヤル 0120-416-864
※複十字シール募金は、通年受け付けています。

2021年度複十字シール運動ポスター

ニュースリリースのお問い合わせ先

公益財団法人結核予防会事業部普及広報課
〒101-0061　東京都千代田区神田三崎町1-3-12　水道橋ビル5階
電話：03-3292-9288　FAX：03-3292-9208　E-mail：fukyu_hq@jata.or.jp
URL：https://www.jatahq.org/